

日本人のホスピタリティ

私が人生の中で、職業奉仕的な意味合いで感動したことは、さすが世界に誇る「おもてなし」の精神あふれる日本の交通機関での出来事です。

2006-2007年度の交換留学生のノエル・フロデリアス（アメリカ）が来日していた時の話です。大江RC40周年の年で自分が会長を務めていた時に、ちょうどその40周年式典にノエルのお母さんが日程を合わせて来日してくれました。彼女はシラキューズRCの会員でもあり式典に花を添えてくれました。

その感謝もあり、お母さんが日本にいる間は若月宅で過ごしてもらいました。帰国前にどうしても京都を見てみたいということになったので、妻とノエルと4人で京都に行くことになりました。京都駅でレンタカーを借り2泊3日の予定で有名寺社仏閣や日本らしい庭園や「侘び寂び」の茶の湯などを楽しみました。

彼女は鴨川の「川床」の風情に感動したようで、二日続けて夜の食事に行くことになりました。その帰り、レンタカーでホテルに着くと、車から降りるとき彼女はお酒のせいで足元がふらつき車止めで足を捻挫してしまったのです。時間がたつほどに足首が腫れ上がり、歩くこともままならず、保険にも入っていなかったため、ドラッグストアで湿布薬、包帯、鎮痛剤を買って翌朝を迎えたのですが一向に腫れが引かなかったため、ホテルに事情を話したら車イスを快く貸してくれ、京都駅の車掌室に置いてくれれば良いと親切に対応してもらいました。まずは京都駅で車掌室に行き事情を話すように言われたため、成田空港までの道中の車イスの手配などを相談したら、そこからが「感動」の始まりでした。

事情を理解してくれた車掌室からJR東海のスタッフが彼女を車イスに乗せて特別通路を通ってエレベーターで乗車ホームまで上がり、その車イスのまま新幹線に乗せてくれましたが、東京駅に降りたら、会社が違うJR東日本だからどうなるのかと尋ねたら、降りたドアにJR東日本のスタッフが別の車イスで待っていてくれますので安心してくださいとのことで一安心。それから、地下2階の京成ライナーまで、そのJR東日本のスタッフがエレベーターから特別通路で送ってくれ、京成のホームでは京成のスタッフが別の車イスで待っていてくれ、またまた感動。成田空港駅に着いたら、今度は空港ビルのスタッフが別の車イスで待っていてくれ、そこからエレベーターを乗り継いでノースウエスト航空のカウンターまで送ってくれ、最後にはノースウエスト航空のスタッフが別の車イスで待っていてくれました。すべての交通機関への連絡が徹底されており、何号車の何処に乗っているかまで連絡されていたのです。

この日本の「おもてなし」にノエルのお母さんは大感動の涙の旅立ちになり、「日本人のホスピタリティ」に感謝する旅行を体験してもらったことで、我々夫婦も、成田空港から誇らしい気持ちで帰形の途につくことができたのでした。